都留文科大学研究紀要　第94集（2021年10月）
The Tsuru University Review, No.94（October, 2021）

原因・理由を表す副詞節とされている that 節について

On Adverbial *That* - Clause Complementation

大　野　真　機

OHNO Masaki

抄録

経験者（Experiencer）を内項として取る心理動詞の多くは、経験者が（表層の）主語として現れるときには過去分詞の形を取って心理状態を表すことが多い。一方、心理動詞の中には、ごく少数ではあるが、worry などのように自動詞化して経験者が主語として現れるものもある。動詞 worry の語法の１つに、worrythat の形式で概略「(that 節）を心配する」の意を表すものがある（e.g., *I worry that she won't be at the airport*.）。That 節を目的語に取っている（ように見える）ことから、この用法での worry は他動詞であり、that 節は文中で名詞節として働いているように思われる。しかしながら大抵の英和辞典や文法辞典は、この用法の worry は自動詞であり、that 節は原因・理由を表す副詞節であると述べる。本論文では主に統語的観点からこの表現に検証を加え、「他動詞＋名詞節」分析の可能性は排除されないことを主張する。

キーワード：worry、自動詞と他動詞、名詞節と副詞節、補部と付加部、that 節

１．はじめに

経験者（Experiencer）を内項として取る心理動詞の多くは、経験者が（表層の）主語として現れるときには過去分詞の形を取って心理状態を表すことが多い。一方、心理動詞の中には、ごく少数ではあるが、worry などのように自動詞化して経験者が主語として現れるものもある。動詞 worry の語法の１つに、worry that の形式で概略「(that 節）を心配する」の意を表すものがある（e.g., *I worry that she won't be at the airport*.）。

That 節を目的語に取っている（ように見える）ことから、この用法での worry は他動詞であり、that 節は文中で名詞節を形成し動詞の目的語として働いているように見える。しかしながら（一部を除き）大抵の英和辞典や文法辞典は、この用法の worry は「自動詞であり、that 節は原因・理由を表す副詞節」であると述べる。

この論文では、こうした広く行き渡っている worry that の辞書的な記述が再考され、代案となるもう１つの立場（「他動詞であり、that 節は名詞節である」）が擁護される。

本論文は次のように構成される。まず第２節で、worry that の記述に関して辞書・辞典

のあいだには２つの異なる立場があることを示す（「自動詞＋副詞節」とする立場と「他動詞＋名詞節」とする立場）。第３節で「形容詞に続く that 節は名詞節である」と主張する八木（1996, 1999）の議論を確認したあと、続く第４節では主に統語的観点から worry that を検証し、「自動詞＋副詞節」とする積極的な根拠を見つけることができないことを示す。以上を踏まえ、第５節は「他動詞＋名詞節」とするのが正しい記述であると結論する。

２．「自動詞＋副詞節」なのか、「他動詞＋名詞節」なのか

Worry that という語法は、次に見られるように、「自動詞＋副詞節」と説明されるのが辞書や辞典、文法書では標準的なように思われる。

（１）小西［編］（1980:1771）

S worry that* [*wh-*] *... Ｓ＜人＞が. . .　ではないかと心配する

You don't have to worry that I expect anything for what I gave you. ― Malamud, *Assistant*

ぼくが君に贈物をした代わりに何かを期待しているなんて心配しなくてもいいんだよ。

NB 14　この that 節は原因・理由を表す副詞節。形式上他動詞のようであるが、本来自動詞である。

ジーニアス英和辞典（G^5）の語法コラムでは worry that と be worried that がまとめて取り上げられ、次のように説明される。

（２）G^5：worry の項

I worried that he would come. = I was worried that he would come.

彼が来るのではと気をもんだ。

前者の that 節は原因・理由を表す副詞節。後者は本来、名詞節だが worried を形容詞とみなせば原因・理由を表す副詞節とも考えられる。

ここで「worried を形容詞とみなせば」というところからは、例えば be glad に続く that 節が一般に「原因・理由の副詞節」と分析されていることから、G^5が be worried that をそれらと同じように扱っているのがわかる。Worry that = be worried that であって、前者は自動詞＋副詞節、後者は形容詞＋副詞節であるとするのが G^5の立場だ。

しかしながら、「なぜ副詞節なのか」および「なぜ自動詞なのか」については、調べた限りにはなってしまうが、どの辞典や文法書を見ても納得できる説明を見つけることは難しい。理由としては、worry という語の持つ歴史的な要因等があるのかもしれない。しかしここでは、憶測となってしまうが、現在認められているこの語の使用という観点から、その理由と考えられる点を１つ挙げる。

他動詞 worry には、人を目的語に取って「を心配させる、困らせる」の意がある。

（３）It worries us that he cancels the agreement.

彼が契約を取り消すというので私たちは悩んでいる。（G^5）

そして大抵の英和辞典では、（ここでの議論に関係のあるところだと）「（人を）心配させる」の意しか worry の他動詞用法として認めていない。こうした事情も、worry that（「を心配する」）を自動詞＋副詞節と分類する１つの要因になっているのかもしれない。

なお、文献としてはごく少数派であるが、これとは反対の立場に立つものにジーニアス英和大辞典（以下、ジ大）が挙げられる。その語法解説欄には、次のような記述がある。（ジ大では worry that を他動詞の項目の中に含めている。）

（４）ジーニアス英和大辞典：worry の項

I am worrying that he will be late. = I am worried that ...

彼が遅れるのではないかと私は心配している。

that 節は元来は原因・理由を表す副詞節なのでこの worry は自動詞とされていたが、今は他動詞と解せられその目的語の名詞節とみられる。

このように、worry that の worry は「自動詞なのか他動詞なのか」、また that 節は「副詞節なのか名詞節なのか」については辞書等の編纂に携わる研究者たちのあいだでコンセンサスがない。そしていずれの立場に立つとしても、その根拠までは十分に示されていない。

３．八木（1996, 1999）：形容詞に後続する that 節は名詞節である

八木（1996, 1999）は angry, glad などの形容詞に続く that 節は副詞節でなく、「なぜ文主語が形容詞で表された感情をもつにいたったかを説明する理由を述べる名詞節である」（八木1999:167）と主張する。その根拠として、「wh-cleft 文にすると前置詞が現れること」（５a）、および（that 節は）「the reason を主語とした文の補語になれること」（５b）を挙げる。

（５）八木（1996:103）

a. What I'm angry about is that you didn't call me.

b. The reason I'm angry is that you didn't call me.

（６）I'm angry that you didn't call me.

（５a）の that 節は、（６）に見られるように、述語 be angry に直接後続することができる。（６）の that 節が表す内容は、（５a）では wh 句の値として働いているが、ここで wh 句は統語的には前置詞 about の補部である。つまり（６）を wh-cleft 文にした（５a）で about が現れているのは、that 節が付加部（副詞節）でなく、述語 be angry about にとっての補部（名詞節）であることを示している。（５a）、（６）において、that 節が述語 be angry（about）に対して担う役割はそれぞれで異なるものとは思えない。ゆえに（６）でも、that 節は述語 be angry の補部であると判断できる（なお（６）で about が現れていないのは、「that 節を後続させるために前置詞が省略された」（八木1999:167）ことによる）。

また（５b）では that 節が be 動詞に後続し、名詞節となっていわゆる補語として働い

ている。（5 b）の that 節が述部 be angry に対して担う文中での役割は、（6）におけるそれと異なるようには思えない。そうだとすると、ここでも（6）の that 節は名詞節であると判断できる。

4．考察：Worry に後続する that 節は何節なのか

Worry that について、主に統語的振る舞いを通してその性質を探る。具体的には wh-cleft 文、wh 句の抜き出し、そして worry（about）に続く補文を中心に取り上げる。

4.1. Wh-clefts

3 節で取り上げた八木（1996, 1999）の議論は、形容詞に続く that 節に関してのものであったが、同じ議論は動詞 worry に続く that 節にも当てはめることができる。[1]

(7) <u>What I worry is that</u> we'll go public and get a lot of hype but go nowhere. [2]

(8) "<u>What we worry about is that</u> when they took that measure two or three weeks ago, they didn't have coronavirus," Eva Cossé, a researcher at Human Rights Watch tells TIME. [3]

（7）、（8）から分かるように、wh-cleft 文では前置詞 about が随意的に出現する。前節での議論をそのまま当てはめると、次のようになる。まず、(i) that 節は wh 句の値であり、wh 句は（7）では他動詞 worry の目的語として、（8）では about の（あるいは worry about という 1 つの述語の）目的語として働いている。また、(ii) that 節は be 動詞に後続し、文中で補語として働いている。以上 2 つの振る舞いは、that 節を副詞節、つまり付加部としていては説明が難しく、動詞の補部とすることで適切に扱うことができる。よって（7）、（8）の that 節は wh-cleft 文の焦点構成要素として現れていなくても、worry that の形式では名詞節を形成し、他動詞 worry の目的語となっていると判断できよう。[4]

4.2. *Wh*-extraction

原因・理由を表す副詞節からは、wh 句を取り出すことができない。島を形成しているからだ。

(9) *What can't you buy the camera because you don't have?
cf. You can't buy the camera because you don't have money.　（今井・中島1978:448）

Worry に後続する that 節が原因・理由を表す副詞節であるならば、wh 句の抜き出しに関して、（9）と同じ振る舞いが予測される。しかし事実は異なり、wh 句の抜き出しは可能であるように思われる。

(10) Talk to your spouse or partner about the physical closeness you need. Share how you

feel about your body, and talk about what you think or worry that your partner is feeling. [5]

(11) The Common Core Conundrum: To What Extent Should We Worry That Changes to Assessments and Standards Will Affect Test-Based Measures of Teacher Performance? [6]

(10) では that 節内から補部が、(11) では付加部が、抜き出されている。

(11) は論文のタイトルだが、この表現だけでは、to what extent が主節動詞 worry と that 節内の動詞 affect のどちらにかかっているのか一見判断が難しいかもしれないが、論文のサマリー（抜粋）には、"*Using administrative longitudinal data from five states, we study how value-added measures of teacher performance are affected by changes in state standards and assessments.*" のような表現が見られる。ここでサマリー内の wh 句は述部 be affected 以下にかかっており、またサマリーの英文はタイトルの英文にある当該箇所を受動文にしたものと考えられる。よって (11) のタイトルにおいても wh 句は that 節内の述部 affect 以下を修飾するものとして意図されていると理解できよう。

Worry に続く that 節が原因・理由を表す副詞節であるとすると、(10)、(11) に見られる統語的振る舞いは説明が困難になるように思われる。

4.3. Worry に後続する疑問節補部と平叙節補部

Worry は後ろに about を従え疑問節補部を取ることができる。ここでは worry about whether の形式を考えよう。この about は「wh 節の前では省略が可能」であると言われている。

(12) I worried (about) whether you could come or not.
君が来られるかどうか心配した　　（プログレッシブ英和中辞典　第 5 版）

ところで疑問の名詞節を形成する whether と if の交替現象に関して、一般に「前置詞の後では whether は if に置き換えられない」という制約が知られている（今井・中島 1978、Quirk et al. 1985、Nakajima 1996、中島 2016）。(12) に見られるように、worry about whether の他に worry whether の形式も可能であるなら、後者の形式では whether が if に置き換えられることがあっても不思議ではない。そしてこの予測には、ある程度の確からしさがある。次の例では whether が if に置き換えられていると判断できる。

(13) But Silver called from the other boat, wanting to know if it was me. Then I began to worry if I had done the right thing. (BNC Online)

疑問を導く if 名詞節は前置詞には後続しないことから、(13) の worry は他動詞としなければならない。あるいは少なくとも、about 等の前置詞が削除された結果、他動詞化していると言わねばならない。どのようなプロセスが背後にあって worry if の形式が可能となっているのかは議論のあるところだが、ここでは *worry about if が非文法的であるこ

とから、制約（「前置詞＋ if は不可」）の違反を回避するために前置詞が削除されていると考えておく。

次に、worry about NP の形式を考える。

(14) He weighs 20 stone, and I worry about [him being so overweight].

（BNC Online：括弧は筆者）

前置詞 about は命題を表す動名詞句を補部に取っている。ここでこの動名詞句を定形節に直すと、次のようになる。

(15) He weighs 20 stone, and I worry that [he is so overweight].

一般に、「that 名詞節は前置詞に後続できない」ことが知られている。(15) の形式は、*worry about that が非文法的となることから、ここでも制約の違反を回避するために about が削除され、これにより worry の他動詞化が起こっていると仮定する。例文 (14)、(15) のカッコ内の要素がそれぞれ伝える意味内容は異ならない。(14) で動名詞句が述部の補部であるとするならば、(15) の that 定形節も同じように考えるのが自然で、(14) とは区別して付加部とすることの理由は見当たらない。

4.4. その他

Worry は it を形式主語とする外置構文を許し、it is worried that の形式で概略「that 節以下のことが懸念されている」という意を表す。

(16) TV sets and video recorders are already in surplus, thanks again to Japanese inward investment. The CBI points out that 40% of Japanese and US investment in Europe in the 1980s came to Britain. Now <u>it is worried that</u>, despite the reality of the single market, the flow will slacken if the country does not sign up for Maastricht. (BNC Online)

(17) The country's largest general scientific organization, the American Association for the Advancement of Science, said <u>it was worried that</u> the restrictions might reduce attendance at its annual meeting in two weeks in Boston. [7]

通常、it 外置文に現れる that 節は対応する能動文では動詞の目的語として振る舞う。(16)、(17) が可能であることは、worry that の that 節が目的語名詞節であることを示唆している。

また次の (18) に見られるように、名詞の worry はその補部として that 節を取ることができる (Huddleston and Pullum 2002:965)。

(18) In an emotional interview he spoke of his fear of the condition and <u>his worry that</u> he will never work again. (BNC Online)

(18) での「名詞句としての worry that」と、これまで議論してきた「動詞句としての worry that」とを比べたとき、that 節が句の主要部に対して担う文法上の役割は両者で異なるものではなく、一方を補部（名詞節)、他方を付加部（副詞節）とする積極的な理由は見当たらない。むしろ、that 節は両者で共通に名詞節を形成し補部として振る舞っているとするのが正しい記述であるように思われる。

5．終わりに

Worry that という一見単純な形式に対して、その説明には「自動詞＋副詞節」と「他動詞＋名詞節」の 2 つの立場があり、辞書・文法書のあいだで記述には揺れがある。八木 (1996, 1999) は「(形容詞に続く that 節は）原因・理由を表す名詞節である」と主張するが、そこでの議論は動詞 worry に後続する that 節にも当てはめることができる。またその他のいくつかの統語現象に照らしてみても、worry that を「自動詞＋副詞節」であるとする積極的な根拠を見つけることはできない。以上から、worry that が「他動詞＋名詞節」であることの可能性は排除されない。

脚注

1 以下、例文に施された下線は特に断りがない限り筆者による。

2 https://hbr.org/2001/02/too-soon-to-ipo

3 https://time.com/5806577/coronavirus-refugees/

4 Wh-cleft 文における be 動詞は、通常は文主語（自由関係節）と数の一致を起こすが、be 動詞の右側の要素（焦点構成要素）とも数の一致を示すことが知られている。

(i) What we want <u>is/are</u> some of those cakes. (Swan 1995[3]:106)

そして、that 節主語は and で複数結ばれると動詞は複数一致を示す一方、(主語位置を占めているように見える）because 節は常に単数一致であることが観察されている。

(ii) <u>That</u> the project has not been properly costed and <u>that</u> the manager is quite inexperienced <u>are</u> just two of my objections to your proposal.
(Huddleston and Pullum 2002:957)

(iii) Just <u>because</u> John hates a rutabaga and just <u>because</u> Mary likes it {<u>doesn't</u> /*don't} mean that they don't get along well together. (Matsuyama 2001:336)

以上からは、that 節焦点構成要素を複数含む wh-cleft 文において、もし that 節が名詞節であれば動詞の複数一致も認められることがあり、また副詞節であるのなら単数一致しかないことが予想され、動詞 worry に続く that 節が何節なのかのさらなる判断材料の 1 つとなるだろう。

5 https://www.cancercare.org/publications/88-breast_cancer_coping_with_your_changing_feelings

6 https://caldercenter.org/publications/common-core-conundrum-what-extent-should-we-worry-changes-assessments-and-standards

7 https://www.nytimes.com/2017/01/30/science/scientists-donald-trump-travel-ban.html?_r= 0

参考文献

Huddleston, R. and G. Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.

今井邦彦・中島平三（1978）『文（II)』東京：研究社.

小西友七［編］（1980）『英語基本動詞辞典』東京：研究社.

Matsuyama, T (2001) "Subject-*because* construction and the extended projection principle," *English Linguistics* 18: 2 (pp. 329-355).

Nakajima, H (1996) "Complementizer selection," *The Linguistic Review* 13, 143-164.

中島平三（2016）『島の眺望：補文標識選択と島の制約と受動化』東京：研究社.

Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.

Swan, M (1995) *Practical English Usage* (3rd edition), Oxford: Oxford University Press.

八木克正（1996）『ネイティブの直観にせまる語法研究：現代英語への記述的アプローチ』東京：研究社.

八木克正（1999）『英語の文法と語法：意味からのアプローチ』東京：研究社.

辞書

『ジーニアス英和辞典』第5版. 2015. 東京：大修館書店.

『ジーニアス英和大辞典』2001. 東京：大修館書店.

『プログレッシブ英和中辞典』第5版. 2012. 東京：小学館.

コーパス

BNC Online (https://scnweb.japanknowledge.com/)

Received : April, 29, 2021
Accepted : June, 9, 2021